Book Review

では，予防歯科の話をしようか
マーロウ先生の北欧流レッスン

大野純一　著

A5 判，104 頁
定価 2,730 円
（本体 2,600 円+税 5%）
医歯薬出版刊

Reviewer
飯島国好
（東京都・飯島歯科医院）

歯界展望の連載中に読ませていただいたとき，ついに歯科界にもこのような著者が出現したのかと驚いたものだった．一冊にまとめられた本書を手にしてあらためて，この国の歯科界がこのような本をもつことができるようになったことが，とてもうれしく感じられる．

プロローグで，マーロウ先生が「本質を知らないことはとても不自由だ．予防医療のコアな部分がわからずに，文献や予防グッズに流されてしまう．これは見ていて辛いものだ」とシンポジウムで発言する場面がある．エピローグでも主人公が「私にとってマーロウ先生というメンターに出会い，学んだ最高の成果は“本質を考えること”であったと思う」と述べている．

この「本質」は実は予防の本質だけではなく「歯科臨床」の本質を語っているのだと思う．Lesson 1 では，「健康と病気はあくまで相対的な関係なんだ」「しかもコインの裏表のような対極でなく，連続的な関係だ」とマーロウ先生は語っている．Lesson 3 では，「（患者側の視点からみると）予防で病気になるのを防ぎ，治療で悪いところを積極的に治す．でも歯科医師の視点からみると，それはまったく逆ではないかね？」「私が思うに，歯科臨床では治療が“守備”で，予防が“攻撃”だと思う」と語っているように，病気と健康は連続しており，予防と治療も明確に区別できない以上，本書は予防の本質を語りながら，歯科臨床の本質をも明らかにしてくれている．

私たちが歯科の本や雑誌を手にしたとき，自分は時代に取り残されているのではないかという，脅迫感を感じることがときどきある．ところが本書は，歯科の分厚い成書何冊分もの情報とビジネス書などの一般書何冊分もの情報を，読みやすい文体とわかりやすく親切な図と北欧風景のイラストによって，なんの脅迫感もなく快適に読ませてくれる．このことはとても貴重なことだと思う．大切な本とは，読み返したくなる本であり，読み返すことによって知識の増加でなく，智慧の増加につながる本なのだと思う．

本書を読んでたくさんの付箋がついた．緑の付箋（目からウロコ）15，赤の付箋（特に重要なところ）9，青の付箋（重要なところ）16 であった．

目からウロコ例 1：Event（事象）と States（状態）を理解できたこと．患者さんの予約だけでなく，自分自身の急な予定から受けるストレスもずいぶん少なくなった

目からウロコ例 2：本当の高度先進医療が理解できたこと．これは治療と予防の本質が理解できてはじめてわかった

目からウロコ例 3：自分の臨床は自分のコンフォートゾーンでよいという安心感を得ることができた

本書によって読者は，予防だけでなく，自分が本当にやりたかった歯科臨床に出会うことができるだろう．